JAPANESE: LEVEL I

NOTE: Students are required to recite from memory ***two*** *poems: the Mandatory Selection, as well as one from the other three poems under Second Selection.*

Mandatory Selection

『まど』　　にいみ　なんきち

まどをあければ

かぜがくる　かぜがくる

ひかったかぜがふいてくる

まどをあければ

こえがくる　こえがくる

とおい子どものこえがくる

まどをあければ

そらがくる　そらがくる

こはくのようなそらがくる

JAPANESE: LEVEL I (cont'd.)

Second Selection I

『こだまでしょうか』　　かねこ　みすず

「あそぼう」っていうと
「あそぼう」っていう。
「ばか」っていうと
「ばか」っていう。
「もうあそばない」っていうと
「もうあそばない」っていう。
そして、あとで
さみしくなって、
「ごめんね」っていうと
「ごめんね」っていう。
こだまでしょうか、
いいえ、だれでも。

JAPANESE: LEVEL I (cont'd.)

Second Selection II

『くまさん』　　まど・みちお

はるが　きて、めが　さめて
くまさん　ぼんやり　かんがえた
さいて　いるのは　たんぽぽ　だが
ええと、ぼくは　だれだっけ
だれだっけ。

はるが　きて、めが　さめて
くまさん　ぼんやり　かわに　きた
みずに　うつった　いいかお　みて
そうだ、ぼくは　くまだった
よかったな。

JAPANESE: LEVEL I (cont'd.)

Second Selection III

『ボールペンのボール』　　さくらももこ

ボールペンのボールは
ときどき
いうことをきかなくなるから
わたしは
ボールペンは
すきじゃなかったけれど
ボールペンのボールは
とてもちいさくて
ちいさいあかちゃんだから
いうことをきかなくても
しかたないね。

JAPANESE: LEVEL II

NOTE: Students are required to recite from memory ***two*** *poems: the Mandatory Selection, as well as one from the other three poems under Second Selection.*

Mandatory Selection

『不思議(ふしぎ)』　　金子(かねこ)みすず

わたしは不思議(ふしぎ)でたまらない、

黒(くろ)い雲(くも)からふる雨(あめ)が、

銀(ぎん)にひかっていることが。

わたしは不思議(ふしぎ)でたまらない、

青(あお)いくわの葉(は)たべている、

かいこが白(しろ)くなることが。

わたしは不思議(ふしぎ)でたまらない、

たれもいじらぬ夕顔(ゆうがお)が、

ひとりでぱらりと開(ひら)くのが。

わたしは不思議(ふしぎ)でたまらない、

たれにきいてもわらってて、

あたりまえだ、ということが。

JAPANESE: LEVEL II (cont'd.)

Second Selection I

『うみの　こもりうた』　工藤直子（くどうなおこ）

ちきゅうが　くるりと　まわって
よるになったら
うみも　ゆらりと　ゆれて　よるになり
たくさんの　いのちを　だいて
こもりうたを　うたう
たくさんの　いのち　うれしく
ゆめをみる

ちきゅうが　くるりと　まわって
あさになったら
うみも　ゆらりと　ゆれて　あさになり
たくさんの　いのちを　だいて
めざめのうたを　うたう
たくさんの　いのち　うれしく
わらいだす

JAPANESE: LEVEL II (cont'd.)

Second Selection II

『さくらの　はなびら』　　まど・みちお

えだを　はなれて
ひとひら

さくらの　はなびらが
じめんに　たどりついた

いま　おわったのだ
そして　はじまったのだ

ひとつの　ことが
さくらに　とって

いや　ちきゅうに　とって
うちゅうに　とって

あたりまえすぎる
ひとつの　ことが

かけがえのない
ひとつの　ことが

JAPANESE: LEVEL II (cont'd.)

Second Selection III

『おおきくなる』　　谷川俊太郎（たにかわしゅんたろう）

おおきくなってゆくのは
いいことですか
おおきくなってゆくのは
うれしいことですか

いつかはなはちり
きはかれる
そらだけがいつまでも
ひろがっている

おおきくなるのは
こころがちぢんでゆくことですか
おおきくなるのは
みちがせまくなることですか

いつかまたはなはさき
たまごはかえる
あさだけがいつまでも
まちどおしい

JAPANESE: LEVEL III

*NOTE: Students are required to recite from memory **two** poems: the Mandatory Selection, as well as one from the other three poems under Second Selection.*

Mandatory Selection

『道程(どうてい)』　　高村(たかむら)　光太郎(こうたろう)

僕(ぼく)の前(まえ)に　道(みち)はない

僕の後(うし)ろに　道はできる

ああ、自然(しぜん)よ

父(ちち)よ

僕(ぼく)を一人立(ひとりだ)ちにさせた　広大(こうだい)な父よ

僕から目(め)を離(はな)さないで守(まも)ることをせよ

常(つね)に父の気魄(きはく)を　僕(ぼく)に充(み)たせよ

この遠(とお)い道程(どうてい)のため

この遠い道程(どうてい)のため

JAPANESE: LEVEL III (cont'd.)

Second Selection I

『信(しん)じる』　谷川(たにかわ)　俊太郎(しゅんたろう)

笑うときには大口(おおぐち)あけて

おこるときには本気(ほんき)でおこる

自分(じぶん)にうそがつけない私

そんな私を私は信(しん)じる

信じることに理由(りゆう)はいらない

地雷(じらい)をふんで足をなくした

子供の写真(しゃしん)目をそらさずに

黙(だま)って涙(なみだ)をながしたあなた

そんなあなたを私は信(しん)じる

信じることでよみがえるいのち

葉末(はずえ)の露(つゆ)がきらめく朝に

何をみつめる子鹿(こじか)のひとみ

すべてのものが日々(ひび)新しい

そんな世界(せかい)を私は信じる

信じることは生きるみなもと

JAPANESE: LEVEL III (cont'd.)

Second Selection II

『かきの実』　　与田(よだ)　準一(じゅんいち)

つゆがしもに変(か)わり、

しもは朝(あさ)ごとに白くなる。

村のかきの実(み)は、赤くうれ、

赤く、赤くうれ、

低(ひく)いえだから、だんだんへっていく。

空は一日、青くすみ、

青く、青くすみ、

からすのむれが、

ごまをまいたように飛ぶ。

そんな日が続(つづ)き、

同(おな)じような日が続き、

こずえに残(のこ)されたかきの実、一つ。

実は赤く光(ひか)り、

赤く、赤く光り、

冬が来た信号(しんごう)のように、

村(むら)でいちばん早(はや)く朝日(あさひ)をあびる。

JAPANESE: LEVEL III (cont'd.)

Second Selection III

『われは草(くさ)なり』　　高見(たかみ)　順(じゅん)

われは草(くさ)なり　伸(の)びんとす

伸びられるとき　伸びんとす

伸びられぬ日(ひ)は　伸びぬなり

伸びられる日は　伸びるなり

われは草なり　緑(みどり)なり

全身(ぜんしん)すべて　緑なり

毎年(まいとし)かわらず　緑なり

緑のおのれに　あきぬなり

われは草なり　緑(みどり)なり

緑の深(ふか)さを願(ねが)うなり

ああ　生(い)きる日の　美(うつく)しき

ああ　生きる日の　楽(たの)しさよ

われは草なり　生きんとす

草のいのちを　生きんとす

JAPANESE: LEVEL IV/NATIVE

*NOTE: Students are required to recite from memory **two** poems: the Mandatory Selection, as well as one from the other three poems under Second Selection.*

Mandatory Selection

『いま始まる新しいいま』　　川崎(かわさき)　洋(ひろし)

心臓から送り出された新鮮な血液は
十数秒で全身をめぐる
わたしはさっきのわたしではない
そしてあなたも
わたしたちはいつも新しい

さなぎからかえったばかりの蝶(ちょう)が
生まれたばかりの陽炎(かげろう)の中で揺(ゆ)れる
あの花は
きのうはまだ蕾(つぼみ)だった
海を渡ってきた新しい風がほら
踊りながら走ってくる
自然はいつも新しい

きのう知らなかったことを
きょう知る喜び
きのうは気づかなかったけど
きょう見えてくるものがある
日々新しくなる世界
古代史の一部がまた塗り替えられる
過去でさえ新しくなる

(Continued on next page)

JAPANESE: LEVEL IV/NATIVE (Mandatory Selection, cont'd.)

きょうも新しいめぐり合いがあり

まっさらの愛が

次々に生まれ

いま初めて歌われる歌がある

いつも　いつも

新しいいのちを生きよう

いま始まる新しいいま

JAPANESE: LEVEL IV/NATIVE (cont'd.)

Second Selection I

『一つのメルヘン』　　中原中也(なかはらちゅうや)

秋の夜(よ)は、はるかの彼方(かなた)に、

小石ばかりの、河原(かわら)があって、

それに陽(ひ)は、さらさらと

さらさらと射(さ)しているのでありました。

陽といっても、まるで硅石(けいせき)か何かのようで、

非常な個体の粉末(ふんまつ)のようで、

さればこそ、さらさらと

かすかな音を立ててもいるのでした。

さて小石の上に、今しも一つの蝶(ちょう)がとまり、

淡(あわ)い、それでいてくっきりとした

影(かげ)を落としているのでした。

やがてその蝶がみえなくなると、いつのまにか、

今迄(いままで)流れてもいなかった川床(かわどこ)に、水は

さらさらと、さらさらと流れているのでありました……

JAPANESE: LEVEL IV/NATIVE (cont'd.)

Second Selection II

『雨にも負(ま)けず』　　宮沢(みやざわ)　賢治(けんじ)

雨にも負けず
風(かぜ)にも負けず
雪にも夏の暑(あつ)さにも負けぬ
丈夫(じょうぶ)なからだをもち
慾(よく)はなく
決して怒(いか)らず
いつも静(しず)かに笑(わら)っている
一日に玄米四合(げんまいよんごう)と
味噌(みそ)と少しの野菜(やさい)を食べ
あらゆることを
自分を勘定(かんじょう)に入れずに
よく見聞(みき)きし分かり
そして忘(わす)れず
野原(のはら)の松(まつ)の林の陰(かげ)の
小さな萱(かや)ぶきの小屋(こや)にいて
東に病気(びょうき)の子供(こども)あれば
行って看病(かんびょう)してやり
西に疲(つか)れた母あれば
行ってその稲(いね)の束(たば)を負(お)い
南に死(し)にそうな人あれば
行ってこわがらなくてもいいといい
北に喧嘩(けんか)や訴訟(そしょう)があれば
つまらないからやめろといい

(Continued on next page)

JAPANESE: LEVEL IV/NATIVE (Second Selection II, cont'd.)

日照(ひで)りの時は涙(なみだ)を流(なが)し

寒さの夏はおろおろ歩(ある)き

みんなにデクノボーと呼(よ)ばれ

褒(ほ)められもせず

苦(く)にもされず

そういうものに

わたしは

なりたい

JAPANESE: LEVEL IV/NATIVE (cont'd.)

Second Selection III

『自分の感受性(かんじゅせい)くらい』　　茨木(いばらぎ)　のり子

ぱさぱさに乾(かわ)いてゆく心を

ひとのせいにはするな

みずから水やりを怠(おこた)っておいて

気難(きむずか)しくなってきたのを

友人のせいにはするな

しなやかさを失(うしな)ったのはどちらなのか

苛立(いら)つのを

近親(きんしん)のせいにはするな

なにもかも下手だったのはわたくし

初心(しょしん)消えかかるのを

暮(く)らしのせいにはするな

そもそもが　ひよわな志(こころざ)しにすぎなかった

駄目(だめ)なことの一切を

時代のせいにはするな

わずかに光る尊厳(そんげん)の放棄(ほうき)

(Continued on next page)

JAPANESE: LEVEL IV/NATIVE (Second Selection III, cont'd.)

自分の感受性(かんじゅせい)くらい

自分で守(まも)れ

ばかものよ